

菊池 竜平 先生 推薦

『勝負哲学』

岡田武史 羽生義治 著

(サンマーク出版)



私は、この本の日本のサッカーを世界のベスト16まで導いた、サッカー界きっての勝負師である岡田武史氏の一節に“はっ”とさせられました。少し長くなりますが読んでみてください。

私はじつは、自主性という言葉は好きじゃないんです。自分で考えて動くのは一人の人間として当然のことですからね。本来、「自主性をもて」なんてわざわざ強調する必要もないんですよ。しかし、あえてそうしなくてはならないほど、やはり日本人は自主性に乏しいところがあります。まじめだけれど組織に縛られやすい、指示されたことを忠実に実行するが個性や創造性に不足している、そんな受け身のメンタリティですね。(中略)

単純な例を挙げれば、サッカーの攻撃は真ん中へ寄りやすいものです。ボールを持ったらゴール前へまっすぐ向かっていくのが、選手はおもしろいしカッコもいいから、真ん中から攻めたがるんです。しかし、そこは相手がかっちり守備を固めているゾーンでもあります。

そこで私が、いったんボールを外側へ出してオープンに展開するサイド攻撃を指示すると、選手は中央へ切り込んで行きたい気持ちを抑えて、しぶしぶその指示に従います。Jリーグレベルだと、それにより点を取れる確率、勝つ確率がやっぱり高くなるんですよ。そこは確率論ですから。で、選手は「監督のいうとおりにやったら、たしかに結果が出たな」と肌で感じます。するとどうなるか。次からは、中を見もしないでサイドへパスを出すようになってしまいます。

中央が空いてるんなら、そこを攻めればいいんですよ。ゴールへの最短距離なんですから。実際に真ん中が空いていることはめったにありませんが、しかし、その確認もしないで、やみくもに外へボールを回してしまうようになります。(中略)

しかし、日本のプレーヤーはそれがなかなかできません。指示を守ることに忠実で自己判断にもとづいたリスクを冒すことへの恐怖心もあるのでしょう。

そこで私が、「あの場面は、おまえもプレスに加わったほうがボールを奪える可能性が高かったんじゃないか」と問うと、こう答える選手が少なくありません。「『いろ』というところにいたんですが」、もしくは「じゃあ、ミスしてもいいですか」です。

つまり指導者から「ここにいろ」という確たる指示か、そうでなければ「ミスしてもいいから思い切って行け」という保証を欲しがっているんです。…

受験、大会、高校生は色々な勝負に直面することがあります。リスクを背負いながら勇気ある決断を期待します。

青春メッセージ(学年発表)



青春メッセージの学年選考が、3年生は5月11日(木)、1年生は5月23日(火)、2年生が11月25日(木)に行われました。結果は以下の通りです。日頃思っていることを、ひと前で発表する機会は少ないですが、当日はそれぞれ熱のこもったメッセージを発表してくれました。各学年の上位2名は6月20日(火)の本選に出場します。



【1年】

👑 第1位	13HR	寺田 乃彩	ヒーローと脇役
👑 第2位	16HR	村松 由菜	信じたこと

【2年】

👑 第1位	21HR	藤澤 南	少女漫画的恋愛観
👑 第2位	23HR	浦木 晃志	自分の弱さ

【3年】

👑 第1位	33HR	宮本 馨介	覚悟
👑 第2位	31HR	神谷 咲絵	大人

【上記以外の発表者】(HR順)

11HR	下平 拓実	僕らが病気を知った時
12HR	鈴木 大心	中学校を卒業して思うこと
14HR	田中 さくら	団体で咲くために
15HR	菊井 絆花	友情とは
22HR	河合 桃花	懸ける思い
24HR	鈴木 瑠菜	挑戦と経験
25HR	寺田 一惺	「才能」と「努力」
26HR	石川 真帆	将来のこと
32HR	河村 美歆	成長
34HR	松島 優子	夢と憧れ
35HR	横山 陽	夢に向かう
36HR	松本 菜瑚	転換点

